

平成21年度第13回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成22年2月22日（月）午前10時～11時30分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

|               |        |
|---------------|--------|
| 出席：学長         | 米澤 和彦  |
| 副学長           | 古賀 実   |
| 事務局長          | 富永 安昭  |
| 文学部長          | 三木 悦三  |
| 環境共生学部長       | 大和田 紘一 |
| 総合管理学部長       | 松岡 泰   |
| 地域連携センター長     | 篠原 亮太  |
| 学術情報メディアセンター長 | 山田 俊   |
| 文学研究科長        | 半藤 英明  |
| 熊本県公立高等学校長会会長 | 石井 博憲  |
| 熊本近代文学館館長     | 河原畑 廣  |
| 和洋女子大学学長      | 坂本 元子※ |

※ 出欠欄の○の後ろに※印が付されている委員は、書面をもってあらかじめ意思を表示したことによる、公立大学法人熊本県立大学教育研究会議運営規程第3条第1項に規定する出席者

事務局：三角事務局次長、井上学生サービス担当次長兼教務入試課長、馬場総務課長、高橋学生支援課長、田中学術総合メディアセンター事務長、教務入試課林田教務班長、教務入試課安達入試班長、教務入試課澤田参事

1 開会（進行：三角次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：米澤学長）

（1）審議事項

① 平成22年度入学者選抜における合格者の決定について

事務局教務入試課から、平成22年度入学者選抜における合格者の決定について、資料1-1に基づき、「私費外国人留学生と、大学院の春季募集について、いずれも試験は2月6日土曜日に行われた。新型インフルエンザ等による追試はなく、本試験だけで終了した。各学部教授会、研究科委員会で合否判定を行っていただいた。議題に沿って、各学部長、各研究科長から説明していただく。」

・私費外国人留学生入試

大和田環境共生学部長から、資料1-2（会議後回収）に基づき「環境資源学科には2名の志願者があった。当日1名は欠席で、1名が受験したが、5割を超しておらず不合格としたい。食健康科学科には2名志願者があったが、1名は欠席だった。日本語があいまいで、5割を越していなかったの、不合格としたい。」との説明があった。

続いて松岡総合管理学部長から、「志願者は3名でいずれも中国人であった。3名中上位2名を合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・大学院文学研究科春季募集

半藤文学研究科長から、資料1-3（会議後回収）に基づき「文学研究科日本語日本文学専攻博士前期課程の一般選抜は3名が志願し受験した、いずれも本学の4年生。合格基準を満たした1名のみを合格としたい。外国人留学生特別選抜は、2名が志願し受験した。いずれも中国人で本学の研究生をしている。日本語能力、専門学力ともに認められず、両名とも不合格としたい。専門職業人特別選抜は、3名が志願し受験した。いずれも日本語教育を仕事にしている者で、3名とも本学で修士論文を書く力を認められるということで3名とも合格としたい。

英語英米文学専攻博士前期課程の一般選抜に2名が志願し受験した。いずれも本学の4年生。2名とも学力が十分と認められ両名とも合格としたい。専門職業人特別選抜には1名の志願者。現職の高校の英語の先生。知識、計画性、意欲を評価して、修士論文を書く力が認められるということで合格としたい。

日本語日本文学専攻博士後期課程は、1名が志願し受験した。本学の前期課程に在籍の者で、高評価を得たので合格としたい。

英語英米文学専攻博士後期課程は、定員2名に3名の出願があった。本学修士課程修了生で、他大学からの受験である。いずれも専門試験は高評価であり、博士論文を書く能力を認め、3名とも合格としたい。」

審議の結果、案のとおり承認した。

・大学院環境共生学研究科春季募集

有菌環境共生学研究科長から、資料1-4（会議後回収）に基づき、「環境共生学研究科博士前期課程には4名が志願し受験。総点が6割を超えていたので、4名とも合格としたい。博士前期課程社会人特別選抜には1名が志願し受験した。優秀な成績だったので合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・大学院アドミニストレーション研究科

石橋アドミニストレーション研究科長から、資料1-5(会議後回収)に基づき「博士前期課程一般選抜には4名が志願し受験した。総点の6割を満了した2名を合格としたい。前期課程社会人特別選抜には12名が志願し受験した。うち10名を合格としたい。外国人留学生特別選抜には1名が志願し受験した。この1名を合格としたい。

博士後期課程社会人特別選抜には1名が志願し受験した。十分研究する能力があると認められ、合格としたい。」との説明があった。

審議の結果案のとおり承認した。

事務局から、資料1-1に基づき、志願と受験状況について、大学院はいずれも定員充足の見込みであるが、ここ数年のなかでは少なめであるとの説明があった。

② 「もっこすプラン2010」について

事務局企画調整室から、「もっこすプラン2010」について、資料2に基づき「平成22年度に重点的に取り組む事項として3つの項目を設定した。Ⅰ研究力向上のための研究体制の強化 Ⅱ熊本で世界と向き合う国際化の推進、Ⅲ大学運営における自律と自立の更なる推進の3つである。179のすべての項目については、3月の本会議で審議していただくこととしたい。」との説明の後、3つの重点実施項目について個々の内容について説明があった。

審議の結果、案のとおり了承した。

③ 学科長、コース長、キャリアセンター長及び保健センター長の選考について

米澤学長から、学科長、コース長、キャリアセンター長及び保健センター長の選考について、資料3に基づき「文学部日本語日本文学科長として山崎健司教授、文学部英語英米文学科長として徳永紀美子教授、環境共生学部環境資源学科長として松添直隆教授、居住環境学科長として北原昭男教授、食健康科学科長として白土英樹准教授(平成22年4月1日付けで教授に昇任予定)、総合管理学部パブリック・アドミニストレーションコース長として明石照久教授、総合管理学部ビジネス・アドミニストレーションコース長として松尾隆教授、情報管理コース長として松野了二教授、地域・福祉ネットワークコース長として永尾孝雄教授、キャリアセンター長として山崎健司教授、保健センター長として田中宏尚教授を提案したい。選考にあたっては、次期学長、次期副学長と相談のうえ決定したものである。」との説明があった。

審議の結果、学科長、コース長、キャリアセンター長及び保健センター長の選考について、案のとおり承認した。

④ 教員の採用について

事務局総務課から、教員の採用について、資料4-1に基づき、「5名の審議をお願い

したい。環境共生学部が4名、総合管理学部が1名。職位は准教授2名、助教3名。助教はいずれも任期5年。昨年12月に枠取りの決議をいただいている。」との説明があり、古賀委員より、「2月22日の全学資格審査委員会で、学部からの推薦どおり承認した。」との報告があった。

## 1 准教授

### 【環境共生学部】

#### (1) 居住環境学科（建築設計及び住空間計画学）

大和田環境共生学部長から、資料4-2（会議後回収）に基づき、「特に設計に優れていて、社会で実際に活躍している人である。12月22日に公募を開始し、1月25日に4名にプレゼンテーションを行ってもらった。4名とも優れていたが、国際性、環境を考慮した設計、地域の環境を考えた設計、地域の材料を取り入れた設計など、作品が優れた評価を受けているということで桑田豪氏を選んだ。採用は平成22年4月1日、職位は准教授。前もって理事長、学長面接を行った。設計事務所の代表ということだが、熊本に居を移すということを確認した。代表は辞任し、本学で専任教員として頑張りたいということであった。」との説明があった。

#### (2) 食健康科学科（栄養指導論）

大和田環境共生学部長から、資料4-3（会議後回収）に基づき、「公募ではなく、任期制の特別枠ということで、渡辺純子氏を選んだ。本学の卒業生で、今年度後期は本学の非常勤講師であった。1月26日に面接を行った。明るく、優れた人である。学位は持っていないが、これまでの活動をみて優れているということで、准教授で良いのではないかと考えた。任期3年。」

続いて米澤学長から、「病気療養中の先生の支援ということで、そのときの状況を見ながら延長等を考える。一般公募はせず、本学の卒業生に絞って任期付きで採用したい。会社の方はしかるべき方をお願いするというので、こちらに住んでもらうが、週末は福岡に帰ることもあることを了解するとしている。」との補足説明があった。

## 2 助教

### 【環境共生学部】

#### (1) 環境資源学科（海洋生態・海洋環境学）

大和田環境共生学部長から、資料4-4（会議後回収）に基づき、「できるだけ本学で育った優れた者を採用したいということもあり、学内公募とした。2名の応募があった。本学の環境共生学研究科の第2期生で、前期2年を終了後、北海道大学で博士の学位を取得し、現在愛媛大学でポスドクをしている。若い人にしっかり研究してほしいということで、助教として採用したい。」との説明があった。

続いて米澤学長から、「研究室助手は中途半端な位置づけであり、助教として後継者を育成していきたい。任期5年。教員スタッフに組み込んで、授業も一部手伝えることになる。」との補足説明があった。

(2) 食健康科学科（栄養教諭に係る教職課程・休職経営管理、調理学分野）

大和田環境共生学部長から、資料４－５（会議後回収）に基づき、「学内公募で助教の募集をした。３名の応募があり、うち学位があり現在助手をしている２名のうち１名から辞退があり、赤星氏を採用したい。研究もしっかりやっており、研究論文もあり、外部資金も取っている。将来は上にもあがってほしいという希望を持って推薦したい。」との説明があった。

【総合管理学部】

(1) 総合管理学科（情報科学）

松岡総合管理学部長から、資料４－６（会議後回収）に基づき、「学内公募で１名の応募があった。現在助手の山之口氏で、勤務態度が良好であり、採用予定者として推薦したい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

⑤ 平成２２年度非常勤講師の採用について

事務局教務入試課から、平成２２年度非常勤講師の採用について、資料５に基づき「前回人選等が終わっておらず、今回改めて学部から推薦があった方々についてご審議いただきたい。全体では、１６０名の３０６科目を予定している。今後全体の採用計画に若干修正がある。少し科目の追加が出てくる可能性がある。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

⑥ 熊本県立大学学則第５８条による学長表彰の審議について

事務局学生支援課から、熊本県立大学学則第５８条による学長表彰の審議について、資料６に基づき、「総合管理学部で教授会を開き了解をいただいた。対象者は、総合管理学部総合管理学科４年尾池絵梨子である。平成１９年二科展に入選、その後も３年連続で入選している。学業についても優秀であり、他の学生の模範と言える。また、現在表彰規程（案）について、事務局で検討しているところであり、この規程（案）の第２条の対象者にあたる。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

(2) 報告事項

① 平成２２年度入学者選抜一般入試の出願状況について

事務局教務入試課から、平成２２年度入学者選抜一般入試の出願状況について、資料７に基づき次の報告があった。「２２年度の総志願者数は２,１８２名であり、昨年度より大幅に伸びている。環境共生学部居住環境学科のみが、昨年度より志願者数が落ちている。その他はすべて昨年度を上回っている。平成１６年度以降の出願状況をみると、

平成 16 年度の 1,900 名から、平成 20 年度は 1,447 名と落ち込んだが、その後回復傾向にある。県外生の割合は今年度上がっている。全体として 4 倍を維持したいと考えているが、今年は 5.5 倍ということで、過去 5 年間のなかで最も高かった。入試は、前期が 2 月 25 日、後期が 3 月 12 日で、それぞれ合否判定については、前期が 3 月 5 日、後期が 3 月 21 日を予定している。」

② 合志市との包括協定の締結について

事務局地域連携センターから、資料 8 に基づき、合志市との包括協定の締結について、「包括協定としては、自治体 12 例目、全体としては 14 例目である。人材の育成、まちづくり、環境共生活動の推進、地域産業などの振興などに連携して取り組んでいきたい。」との報告があった。

③ 西部電気工業(株)から熊本県立大学未来基金への寄付金の贈呈及び「西部電気工業奨学金」の創設について

事務局から、西部電気工業(株)から熊本県立大学未来基金への寄付金の贈呈及び「西部電気工業奨学金」の創設について「西部電気工業株式会社から奨学金を目的とする未来基金への寄付金の贈呈があり、贈呈式をとり行った。この寄付金をもとに奨学金を設立する。平成 22 年度から。大学院生も対象とする。給付型で年額 24 万円である。」との報告があった。

4 その他

事務局から、個人情報漏えい事案に係る本学職員の懲戒について、「現時点において、2 次被害の報告はない。学内の規程にしたがい戒告を行った。あわせて監督責任として、管理監督者 2 名の口頭訓告処分を行った。」との報告があった。

- 今後の日程について、第 14 回 3 月 5 日（金）午前 11 時～、  
第 15 回 3 月 15 日（月）午後 2 時半～、  
第 16 回 3 月 21 日（日）午前 11 時～